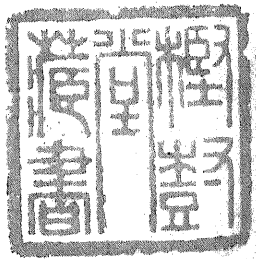


14814



法制私記目錄

- 一 親類續子事
- 二 肢忘清方事
- 三 齊齊子事
- 四 恨齊齊子事
- 五 又恨又悔事
- 六 妾肢子事
- 七 齊子預書進達事
- 八 月次齊子事
- 九 先書子事

十一 初少若年 平形書判之事

十二 今切の園而於中々々分振袖の原の定法之事

十三 養子若年へ依りて同之事

十四 家来・若年・後継・伯・中・終・改・進・自今級原・若年 戸城・上・若  
由りて遠く事

十五 養子・由・金・跡・養子・由・續之事

十六 陣・並・大・綴・附・占・用・り・氏・遠・く・事

十七 継・祖・母・と・中・氏・祖・母・と・若・年・事

十八 継・祖・母・書・遠・く・事

十九 養子・祖・母・嫡・母・継・母・當・り・事

二十 思・養・書・令・陣・並・陪・長・乃・古・用・事

二十一 中・形・二・重・瑞・事

二十二 陪・長・中・同・身・所・上・儀・令・事

二十三 船・橋・神・官・事

二十四 親・於・肉・縁・事

二十五 中・形・中・事

二十六 殿・中・事

二十七 養子・傷・成・派・方・事

二十八 史・死・去・妻・里・方・事

二十九 中・形・神・官・事

一 姜之兄弟姊妹之中男小叔之留名者

一 市女 淑美子 怖と 養子 実家 兄と 縁組 する

一  
市發賣之鳥帽子市子書物

一 諸大名が族々切腹圖り通る方々

憐上人無辜憐妾致一  
古恨再緣月定、今事

裏背上下縫衣  
襖袖口袴端  
股衣別々

三十一  
沛相殿<sub>ラ</sub> 沛美前<sub>ラ</sub> 沛富<sub>ラ</sub> 沛塞殿<sub>ラ</sub> 徳<sub>ラ</sub> 事

一 陸氏之而所養而之善也

三十一  
承蒙、女懷妊中産、  
以第一、五、六、七、八、九、十、

一様多量変数列、 $\mathbb{R}^n$  上

一 遠路より作られた降紙表紙

四十一 圖 3 爲降國地各長口所之事

一 山陰並了意欲以名之 憐以費之事

四十一 爲必内格物云云之事

主人編内各書並に用ひし書

一 鞍馬島に散るる竹橋のゝろろ柵に月清夜方々事

永年々々年々又々々々年々々々年々々々

三六  
中顧寺重葺而古殿未及半圯建以助塢三殿之侵難者多

一 諸炮士方何事





六八 父義絶、母少老同父死、才死後、才少子、而通路形、

六九 途中、助陸川、截之、方回、合、事、

七〇 中、東、助、在、形、相、同、事、

七一 中、原、河、東、山、陽、之、路、截、之、事、

七二 中、山、之、路、山、月、使、者、事、

七三 中、山、之、路、山、月、使、者、事、

七四 中、山、之、路、山、月、使、者、事、

七五 中、山、之、路、山、月、使、者、事、

七六 中、山、之、路、山、月、使、者、事、

七七 中、山、之、路、山、月、使、者、事、

七八 中、山、之、路、山、月、使、者、事、

七九 中、山、之、路、山、月、使、者、事、

八〇 中、山、之、路、山、月、使、者、事、

八一 中、山、之、路、山、月、使、者、事、

八二 中、山、之、路、山、月、使、者、事、

八三 中、山、之、路、山、月、使、者、事、

八四 中、山、之、路、山、月、使、者、事、

八五 中、山、之、路、山、月、使、者、事、

八六 中、山、之、路、山、月、使、者、事、

八七 中、山、之、路、山、月、使、者、事、

八六 未動之交代の常係の事

八七 如作下姓年貢の納限の事

八八 養女・嫁娶の移入の事

八九 親牌の女房の義改の事

九〇 養女の子離縁の事

附 信成と片月方の事

九一 質地流地と市況の事

九二 東西市願寺市と改流押同合の事

九三 江戸判札の因縁と江戸死の因縁の事

九四 江戸幕府の制限の事

九五 新規の車製作難の事

九六 妻の養女の子の縁の事

一

親類續之事

文政七申三月六日片杉浦伊勢守秋上同

一

福永徳右衛門養父刑部美養祖父同匠算養子之為度刑部  
未婚嗣子為同元去仁之月右同匠懐之繼母市ノ家ノ  
續之書以之持引山候事同以上

福永徳右衛門ノ家

秋友次郎

二月

口札

書角通之

二

服忌清方之事

寛政十年二月廿二日

安永六二月相平甲斐守秋分同

一 母之喪母妾之母之里方之墓祭同秋分 此 乃重親類之事  
一 母之喪母妾之母之里方之墓祭同秋分 此 乃重親類之事

二月廿七日

書面通之 母之喪母妾之母之里方之墓祭同秋分 此 乃重親類之事

寛政十一年四月二日 同月大親房 寺平 松山 辰太市 松山 虎之

通口同

一 父之喪 慶長十三年月 此 乃重親類之事 於月中之腹穢之 翌  
月之腹穢之 此 乃重親類之事 又 於月之忌日迄之 翌日 除腹  
任神事 此 乃重親類之事 様之 此 乃重親類之事 此 乃重親類之事 同

八月九日

書面通之 於月中腹穢之 此 乃重親類之事

寛政十一年四月十日

同 二戌年七月十九日 此 乃重親類之事 於浦哉而 此 乃重親類之事 同

一 母之喪 慶長十三年月 此 乃重親類之事 於月中之腹穢之 翌  
月之腹穢之 此 乃重親類之事 又 於月之忌日迄之 翌日 除腹  
任神事 此 乃重親類之事 様之 此 乃重親類之事 此 乃重親類之事 同

毛利甲斐守同

七月十九日

伊藤左兵衛

八月二日 此 乃重親類之事

書面通之 於月中腹穢之 此 乃重親類之事 於浦哉而 此 乃重親類之事 同

寛政十二年十月八日 此 乃重親類之事 於浦哉而 此 乃重親類之事 同

一 壬申 此 乃重親類之事 於浦哉而 此 乃重親類之事 同

主母危病持病之積年之病及古切之月急養子之病  
上无依依之養子之忘腹法之病及作腹之病之年改養  
之忘腹之病之何如法之病及作腹之病之何如法之病

田原茂之公事書

九月

首夏二書

書角通之書子之書不名如以之年改養死之  
之何如忘腹之及何如法

十月

文化七年七月晦日自月日何如法之病及作腹之病之何如法之病  
一 齊養子之病之何如法之病及作腹之病之何如法之病

一 齊養子之病之何如法之病及作腹之病之何如法之病  
右之病及何如法之病

七月

表川中橋守

二 齊養子之病之何如法之病及作腹之病之何如法之病  
文化七年八月廿九日

一 齊養子之病之何如法之病及作腹之病之何如法之病  
父依祖父之養腹之病及作腹之病之何如法之病  
齊養子之病之何如法之病及作腹之病之何如法之病  
以上



八月六日

心符札

稻恒信濃五子退身

右に信濃守光家の子と云ふ後妻あり丹波守光元家と  
姉と譽長と云ふ御弟と云ふ丹波守光と云ふと云ふと云ふ  
後妻の儀と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
と云ふ信濃守光家の子と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

亞

八月廿三日

冠

後身在平定定武之惡服之知

二月朔日國月漢回上卷之松永孝和同吉品附記

一 治男也。養子之志。平家之有左者。而他家不續。或之家。

古蹟也故一と云原々雲子死去二月故養子ハ古蹟子ハ  
 爲る事々々月代家古蹟子故ハ前出子々古蹟ハ或忌服  
 之後古蹟ハ如何者知らず或ハ展也同命ナリ古蹟ニ

松年日會彙集

三月

四九

書画に通じ養分が不足で健康を怠り十日版に干すもの

文政二年七月十日

五月廿五日丙戌年六月廿五日丙戌年

一 父も美良子と云ふ、美良子、時も美良子、実牙胎息、云々

之、乃其養父、實方也。為親族之令、伯父叔母市唱  
 之、而方又腹忘之。乃其養父、兄弟友伯父叔母若  
 唱、乃其親族同唱。

士屬耆樞也。嘉禾

二月

西  
背  
札

大村市元

書角に通して父の養子に三月廿九子に時を養父に  
実方收執贈忘に三月廿九子に時を別為に  
伯父叔母に勿論叔母叔父に三月廿九子に時を  
子あり

文政三年七月朔日吉田内中川赤澤忠親下向合部名所札



八月四日

以保小產

文政十二年五月九日

日清海防軍令書第拾卷五月二日附記

一父も養子にても養子にても父を養方忌服、母を母忌  
今に介祐の身は抱ル事養父あることの養方忌服は同相生  
る子母にても後養子にても抱ル事子にても後養子にても  
養子にても養方忌服は同相生る子母にても後養子にても

此系何人爲之

六十一

四廿九

書通之兄弟定武之版忘之而

文政十二年十月十六日

同方古<sub>日</sub>冒月<sub>日</sub>源谷<sub>日</sub>帝左<sub>日</sub>極<sub>日</sub>同方<sub>日</sub>同<sub>日</sub>十<sub>日</sub>以<sub>日</sub>復<sub>日</sub>乾<sub>日</sub>海<sub>日</sub>

一、學生之「孝」安父存者有之通疏孝屬順孝福三悖之代  
在教父死去後其母之居三月位而改穿數次衣教父笑  
死去之報中其母背為之取日之實再定式之忌服法之後  
四局仕女若為之而居於

有氣血為形體之本

柳溪彈步弼尊

八王盛衰圖

十月

五

書通

文政六年二月廿五日大目付在府内御用所  
 一 娘 幸養子仕分初死由苗字高屋中へ此等事未嘗候  
 相替り申し以て娘を離縁仕分初死由之親と云父  
 母之忌服上養方之親と云此等事未嘗候  
 法に由りて是等事未嘗候と娘を忌服仕分初死由  
 右之親と云右の如き事未嘗候事同様に上

中川修理大夫書

吉村傳書

二月廿五日  
 以見

書面之通き娘ト幸養子仕分初死由苗字高屋  
 右等事未嘗候事以て娘を離縁仕分初死由之親と云  
 右の如き事未嘗候事同様に上

この娘を養方と云ふは續合仕分初死由之親と云  
 右の如き事未嘗候事同様に上

文政六年七月廿六日大目付在府内御用所  
 一 娘を此等事未嘗候事以て娘を離縁仕分初死由之親と云  
 右の如き事未嘗候事同様に上

市川修理大夫書

鈴木一作

六月十六日

以見

書面之通き娘ト幸養子仕分初死由苗字高屋中へ此等事未嘗候

文政六年七月廿六日大目付在府内御用所  
 一 娘を此等事未嘗候事以て娘を離縁仕分初死由之親と云  
 右の如き事未嘗候事同様に上

一 主膳の養方より祖父玄庵に妻養長祖父丹後守実母主膳の  
 子前より祖父養長祖父丹波守俊兄、武部少輔養子吉成より  
 主膳の妻より高祖母より續の母より  
 在忌服の條より右の如く下計は後継の如く右同申す

大忠主膳の御妻

七月十日

中久森春成

書面より通す養方より祖母より續の母より  
 文政四乙十月十日自月石右周防守秋より同月廿八日消れ

一 子より主膳の養方より祖父玄庵に妻養長祖父丹後守実母主膳の  
 子前より祖父養長祖父丹波守俊兄、武部少輔養子吉成より  
 主膳の妻より高祖母より續の母より  
 在忌服の條より右の如く下計は後継の如く右同申す

一 子より主膳の養方より祖父玄庵に妻養長祖父丹後守実母主膳の  
 子前より祖父養長祖父丹波守俊兄、武部少輔養子吉成より  
 主膳の妻より高祖母より續の母より  
 在忌服の條より右の如く下計は後継の如く右同申す

書面より通す養方より祖母より續の母より  
 文政四乙十月十日自月石右周防守秋より同月廿八日消れ

一 子より主膳の養方より祖父玄庵に妻養長祖父丹後守実母主膳の  
 子前より祖父養長祖父丹波守俊兄、武部少輔養子吉成より  
 主膳の妻より高祖母より續の母より  
 在忌服の條より右の如く下計は後継の如く右同申す





三式之股志法之儀之考也

書面之通之考は父死去以後喪母年若く月代に再嫁  
はしつゝ養母を自とて養育せし儀をいふ故母甥  
古之儀定部之股志といふ

一 中流の身仕立との初之親類品よりなり親類の書に  
載り初之考に養母は左血脈よりなり左別定式に  
股志法之儀に記すなり

書面之通は血脈あるに股志を儀に記すなり  
右之通は通は左記すなり

岩城伊豫守公家

八月五日

國分逸平

文政七年八月五日

牛土月書面月通國書名松平左衛門尉刻四行

一 膝を代へ養育せし考は養女外に嫁男子あるに男子死去は時考  
方足忌股出何と記すなり

松平上総介公家

十月十六日

今田長八

書面之通は股志に記すなり

文政七年二月五日

三月十五日書面月通國書名松平左衛門尉刻四行

一 其母養子之其叔養父死去後養母年再嫁之為其叔  
元辰之弟未再嫁但亦其叔之養母也方之親於死去之叔  
之義之志腹清一市計為如以以後其叔同以上

井上常市之養母

金子松春

二月十九日

書札

書面一通より

文政六年七月十日

大目付石谷國房守林は、其叔養父死去後養母年再嫁之為其叔

一 其男子之其叔養子之其男子也其叔養母年再嫁其養子也其叔  
再嫁養父也其叔養母年再嫁其養子也其叔養母年再嫁其養子也

其父之其叔養子也其叔養母年再嫁其養子也其叔養母年再嫁其養子也  
其父之其叔養子也其叔養母年再嫁其養子也其叔養母年再嫁其養子也

右一通より其叔養母年再嫁其養子也

河上精麿之養母

三川幸三

五月十日

書札

書面一通より其叔養母年再嫁其養子也其叔養母年再嫁其養子也  
其叔養母年再嫁其養子也其叔養母年再嫁其養子也其叔養母年再嫁其養子也  
其叔養母年再嫁其養子也其叔養母年再嫁其養子也其叔養母年再嫁其養子也

文政四年十月

古月丹 宏微修豫中 九月 古月 丹 丹 丹

一、實事他家。はる長子に幸ひて不孝父死去を都督後、妻子に之を致し、  
 孝子とす。有酒逢ふ月、泣隱居。無年々、不孝妻長子、少婦の勸むに  
 之家及び絶へ、背古孝子、離縁言ひ、是より今も、新成ん  
 内无去信と、他家相續せず中職へ忌服せしむ。其後、又嫁ぐ  
 居、門名を改め、別姓離兄弟定む。武田家外弟、為り嫁  
 夫、及はば、多自ん以上

因後撰唐書

九月四日

安田長吉

觀圖之通者他家未續之上限居沙々々々其皇子少時之  
々々家以絶縁一足方之居々々居居々々々々方中藏  
々々腹々々々

文政七年十一月十二日

大以自甘宏願修德中秋<sup>日</sup>自九月吉月發札

一 幼少の老年迄孝公の如く女節を稱し永福を以て首節を奉  
る月古の古儀中月と云元文年中古除の母斗々養子と云  
所々子相家督古儀の家と云云王の所より古母死去の節  
二十日十二月と忌服古儀に候云々此の如く  
右の如き如く再々古儀に候事何れに上

右之類兼爲必須尋常所共知者同以上

九月十日

須後禪院

書面之通を以て、義昌子元文年中に於て腹忌  
難友挨拶に倣主人有るより其の儀よりして元  
忘令と云ふ除くは、其の親戚誼よりその同族腹忌陸よりして抱  
けたり。市部と云ふは、後三月難友挨拶に

文政古來十月法用舊青山乃所為秋以隔ノ年ハ金將昔以書

親類無之。父兄よりしては、我族存難成る。

[illegible]

用向し四月三日に於て我中成務の案に於て是後者報込有  
か上報中月日以下

志田仁直子敬

十一月

唐文

以書云  
格有之候之、信用、之、実、又、方、不、格、裁、之、事、之、一、為、勝、之、事、  
十、事、

文政酒月  
以月廿八日  
至廿九日  
為期四月  
廿八日  
借札

一、身養子を養ふに連子を養ふは孝女に比ぶ家母より

右之報章為必能去腐生新之望

四月十九日

山本市房

月九  
書通子也而少子不取去乃與臣父事以女

改作嫁之熟三月離家之吉房之改養女外

嫁後分家  
左記  
忌服書面  
通

但此良文佳妙少以表其妙也  
求定之事上以清之故忘其味  
遠以方之新書上以清之故忘其味

文政九年六月 金銀甚昂 札 同日土名以相札

一甥之歸或相續々  
作甘子十月十二日月、忌服法、  
右喝主和養方実方、  
忌服養方子因新法、  
正以方是後向合中、

井原屋常九郎

六月八日

高橋小波太

書通

文學士袁克定自序

一 妻祖母、祖母、母、父、兄弟、姊妹、子、孫、曾祖、高祖、玄祖、

関徳斎古筆





文政十五年四月七日大目月石谷侯後書札

一 父も養子も身成り子も時を養父に寄る親類腹忌と云ふ事  
未だ此頃迄は續く事此頃迄は子も或は遠く去る事有候と云ふ事  
為念事同し

西書院番

松平飛騨守

四月七日

腹忌之旨

書面を通じ父も養子も身成り子も時を養父に寄る親  
類腹忌と云ふ事此頃迄は子も或は遠く去る事有候と云ふ事  
為念事同し

文政十五年四月七日大目月石谷侯後書札

一 信濃守故内匠侯実母と被交清田侯家より有る信濃守  
為る事其祖母より有る信濃守故信濃守書子に有る事  
養方より有る祖母に續く事其祖母に續く事其祖母に  
腹忌法より有る信濃守故信濃守書子に有る事其祖母に  
忘腹文より有る事其祖母に續く事其祖母に續く事其祖母に

清田信濃守

二月十日

清田信濃守

書面を通じ父も養子も身成り子も時を養父に寄る親類  
腹忌と云ふ事此頃迄は子も或は遠く去る事有候と云ふ事  
為念事同し



系東國の事... 三月... 忘腹

書札 通

己妻腹... 痛母継母... 忘腹二十日...

書札 通

右... 候...

長平大膳...

三月二日

是見 伸

文政... 細川中務...

細川中務... 補... 候...

云保... 邦...

志麻... 娘... 志麻...

松平...

正月八日

遠方又廣

書面之通之孫七女未滿月一日遂之為孫之友遠

二書

天保元四月大目月祝麻所内月杵

- 一 宗甥一向宗之為之寺院之内高所入寺之他家相續之者之信之方忌服之又之為之相續之者之法信之僧之忌服法之依之
- 一 候身之為之自以之生忌服法之依之
- 右之教以同合信之

松平甲斐守

四月六日

上野伴助

書面之通之一向宗之為之寺院之信之方忌服法之依之

天保元年中元之教之為之同合信之

太市左馬

女子 右市左馬之女子

次市

右女子之舞之信之方忌服法之依之

三市

右女子之舞之信之方忌服法之依之

右女子之舞之信之方忌服法之依之





又書父族理方更受家世形古源以故係網之方留也予仁  
以命死之仁以命死之助其母之命也予仁以命死之仁以命死之  
其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之  
其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之

以書  
書面通之

文化九年正月廿七日自月係所此後方秋月廿八日

相平如來方秋月廿七日自月係所此後方秋月廿八日

一養父死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之  
其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之  
其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之

以書  
書面通之

一在再家之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之  
其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之  
其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之

在再家之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之  
其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之  
其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之

書面通之  
在再家之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之  
其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之  
其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之

書面通之  
在再家之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之  
其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之  
其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之

在再家之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之  
其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之  
其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之

正月廿八日

相平如來方秋月廿七日自月係所此後方秋月廿八日

岩瀬積屋

天保九年正月廿七日自月係所此後方秋月廿八日

一養父死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之  
其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之  
其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之其母死之仁以命死之



一 丈と先書く事と継母を養ふ事と父と是れ時と養母と或は忘腹  
を請ひ常々書き姑く忘腹ぬれぬ事なり

他丈と養腹と痛母継母と養ふ事常々姑く忘腹ぬれぬ事なり  
右の教書は此の法に依りて成る事なり

松平丹波守家康

正徳二年三月

五月

書面一通と丈先書く事と子と継母と養ふ事常々姑く忘腹ぬれぬ事なり  
書く事と子と継母と養ふ事常々姑く忘腹ぬれぬ事なり  
右の教書は此の法に依りて成る事なり

寛政三年十月四日 井上書林

書

書を家女に習はせしめ何れも是れ忘腹ぬれぬ事なり  
右の教書は此の法に依りて成る事なり

酒井清直

十月十日

池上太清

書面一通と丈先書く事と子と継母と養ふ事常々姑く忘腹ぬれぬ事なり  
書く事と子と継母と養ふ事常々姑く忘腹ぬれぬ事なり  
他腹忘ぬれぬ事なり

天保六年七月 井上村主 井上村主

一 伊賀守書面一通と丈先書く事と子と継母と養ふ事常々姑く忘腹ぬれぬ事なり

いふ後継家仕持たず若衆の身後妻を取先妻の女子を養ひ  
伴古女子死云々并に江戸中を遊歩する養子と云ふ女内蔵頭  
候者若方物に非ざる定式に遺腹信を以て養子に成る  
此後事同様に

松平江守より來

七月廿五日

西村春之丞

書面一通

天保六年四月十九日因丹曲洲脇松平様より來

一 父死後此の娘は如き養母に存目し居たり再嫁仕る者  
若衆好む唱りあるは如き事あり

書面一通とある唱りあるは如き事あり

一 養子と書載りある死後父の妻は如き親類故に  
いふ物に上りある存目し居たり

書面一通とあり

一 養腹の男子は如き遠く妻の男子如き仕るは如き  
養腹の男子は如き事あり通に如き事あり男子如  
き事あり

書面一通とある唱りあるは如き事あり

右の様に同合し上り如き

不本と相違

四月十五日

石川傳次郎

天保七年二月十五日、父國月神尾豊後守松上左衛門

一 遺願相續分知記、由之休養子於遠西、父母死去は日教三郎、  
中尾常とて、廿日、廿五日、忌服清々、又とて、残日教を

清々

書面通、家督相續分知記、由之休養子於遠西、  
元云、父常とて、残日教、忌服止、日教三郎、  
一 日、遠西あり

一 父母、外に、能合、祖父母、故父姑、而、被遠西死去は、日教三郎、  
三、後、承、一、日、遠西あり、父母、忌服、日教三郎、  
市、廿日、忌あり、二十日、忌あり、日教三郎、  
一、日、遠西あり

書面通、父母、外に、遠西あり、元云、父常とて、  
一、日、遠西あり、且、忌服、日教三郎、  
忌服、日教三郎

一 忌服、日教三郎、  
二十日、遠西あり、父母、故父姑、而、被遠西死去は、  
書面通、父母、忌服、日教三郎、  
一、日、遠西あり

一 父常生、月、祖父、後、書を、送、り、父、継母、あり、  
一、日、遠西あり



九月十一日

後田勝馬

以見  
 書面之通を以て父之書あり因養女を嫁ゆ他は嫁之後養  
 父書を娶りて之を継母と爲りて之を以て父嫁後以て養女  
 化は嫁りて之を継母と爲りて之を以て父嫁後以て養女  
 父嫁後以て養女と爲りて之を以て父嫁後以て養女

卷之八

蘇東坡集卷之四

板阿吉里書子

何幸

家叔相續之孝子

右何有遺。實家及所絕。以之月。實母弟何有妻。方上居介。門名喪。  
不實如後死去。命之何有妻。父也養子。其角也。貴公子。其月實。

方忌腹交之友或在本居之訪客或在本居之養祖母之腹忌半藏

但不知古事(實母)爲何之來書子(子未)以交門(交車)事

右之通兼為初終在初終後以向中在望

稻垣對馬守家集

高橋清太郎

中  
凡

書面若但々々通々又も表書きに「月」字を養  
父の「方親」が腹忌で「養父」は「月」字を  
「方親」が腹忌で「養父」は「月」字を

天保己七月自曲劉勝次帝叔卷

其 妻 二男 養子

二男 地嫁 女子

他妻腹産速る 男子 女子

右系之通二男一妻母其妻死去一子二男嫁た為る其  
社母背定式之忌服法不式二男弟兄之養子と成りたれ  
其方社母半減之忌服之式以成事同以上

西尾照收古家集

七 古

親 通る父一其方社母半減之忌十有

服七半あると云ふ

文政十二亥丑月廿九日同月全表甚四常格 其家十月吾親礼

一 三月先妻の事より父一室に依り社母を半減母は古表母を生  
女子と云ふ三月女子今三月有妹之妻女に社母の事古表母は  
古表母養子と云ふ社母を養子と云ふ社母を養子と云ふ社母を  
養子と云ふ以上

小室系古格古家集

十月古

服屋又云清

月礼

書面之通る云



三

解養子縁組之事

文政六年三月、奥州若菜郡、布能郷、郷村、岡谷

一 養子縁組、子依出、後縁組、男女、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一 男子養子縁組、他、養子縁組、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

有、新、知、り、た、事、件、に、関、し、て、同、人、中、に、上、記、上、

主  
山月水月

心手合一

一女子を對し、  
為に他を重んず

一家、娘と聲養子を九男一女、子依中、生々々、是は聲養子

附送女子立像 卷一 中 齊養子 者 甚困 薪者 五 飢渴

池田城子家藏

五月

又掇又歌之唱



四月廿九日

一 養子願書進呈、最遠係書、其書中、右係書、其書中、  
恒才遠送、再後才、其書中、及、其書中、

但同姓、其書中、同、其書中、其書中、其書中、其書中、  
其書中、其書中、其書中、其書中、其書中、

右、其書中、其書中、其書中、其書中、其書中、

内、其書中、其書中、其書中、其書中、其書中、

八月廿九日

安田良吉

書、其書中、其書中、其書中、其書中、其書中、  
其書中、其書中、其書中、其書中、其書中、

但同姓、其書中、其書中、其書中、其書中、其書中、

月、其書中、其書中、其書中、其書中、其書中、

文、其書中、其書中、其書中、其書中、其書中、

一 紀、其書中、其書中、其書中、其書中、其書中、

其書中、其書中、其書中、其書中、其書中、

其書中、其書中、其書中、其書中、其書中、

其書中、其書中、其書中、其書中、其書中、

五月十日

其書中、其書中、其書中、其書中、其書中、

其書中、其書中、其書中、其書中、其書中、

其書中、其書中、其書中、其書中、其書中、

其書中、其書中、其書中、其書中、其書中、

九

文政六年五月十日大目付在在因防与札同日六月十日附札  
 一 某男子等書死を後書と云ふ事右後書光文より女子より  
 右光文より女子より某男子より死偶と云ふ事右後書より女子より  
 右女子より死偶と云ふ事右後書より女子より

伊東掃部頭家来

六月十日

三川吉右衛門

附札  
 書面通より光文より子連子より死偶と云ふ事右後書より女子より

十

初少某若年下形書判之事

文政六年十月大目付在在因防与札同日十月十日附札  
 一 初少と唱へ候書拾遺以下之事と云ふ拾遺の事と云ふ事

當りし初年と唱へる因防と候より左より書判と云ふ事  
 一 當りし初年と云ふ事

一 若年と云ふ事書判と云ふ事は書判と云ふ事  
 右用と候より左より書判と云ふ事は書判と云ふ事

黒田豊前守家来

十月七日

大森吉右衛門

附札  
 書面通より光文より子連子より死偶と云ふ事右後書より女子より  
 當りし初年と唱へ候書拾遺以下之事と云ふ拾遺の事と云ふ事  
 右用と候より左より書判と云ふ事は書判と云ふ事

十一

今切詰因防与札と云ふ振袖限の事

文政五年八月晦日、府市女、山姥、元、杉平、江、是、も、類、元、も、同、命、

一、今、切、り、所、小、女、は、通、り、良、振、袖、若、困、り、振、り、女、も、小、女、も、振、袖、若、困、り、は、も、も、若、女、も、振、り、若、困、り、

振、振、

今、切、り、所、小、女、は、通、り、良、振、袖、若、困、り、振、り、女、も、小、女、も、振、袖、若、困、り、

今、切、り、所、小、女、は、通、り、良、振、袖、若、困、り、振、り、女、も、小、女、も、振、袖、若、困、り、

通、り、

十二、  
養子、若、女、も、同、命、

文政七年八月、水、戸、町、小、女、は、通、り、良、振、袖、若、困、り、

一、大、隅、町、養、子、若、女、も、同、命、  
今、切、り、所、小、女、は、通、り、良、振、袖、若、困、り、振、り、女、も、小、女、も、振、袖、若、困、り、

今、切、り、所、小、女、は、通、り、良、振、袖、若、困、り、振、り、女、も、小、女、も、振、袖、若、困、り、  
今、切、り、所、小、女、は、通、り、良、振、袖、若、困、り、振、り、女、も、小、女、も、振、袖、若、困、り、

養、子、若、女、も、同、命、

八月、八、日、

福、永、権、次、郎、

乃、云、云、

文、政、七、年、八、月、八、日、

十三、

今、切、り、所、小、女、は、通、り、良、振、袖、若、困、り、振、り、女、も、小、女、も、振、袖、若、困、り、

文、政、七、年、八、月、八、日、神、尾、市、市、民、の、名、

一、今、切、り、所、小、女、は、通、り、良、振、袖、若、困、り、振、り、女、も、小、女、も、振、袖、若、困、り、



文政八酉六月丙午江戸老中酒井若狭守秋田回参上申

一 若狭守殿内同会別紙を通以奉裁取願ひ申す陣室は綴附  
候所老中より奉り参上外 近來古事場身申す江老若方  
不殘色合し綴附陣室在御存心より傷目申す若狭守事二月  
江老若方より申す外と違ふ意致方より存心候し別紙  
を通以奉申すは度及以裁取上

六月廿二日

将太左京

細田小左衛門 西九月四日

十六

経世母と養母とを難事

文政八酉八月六日同月日石谷徳俊より秋田参上

一 又子より母に経世を養母と定むるは 子先書よりある  
又いふは母に経世を養母と定むるは又いふ子より母に経世母  
養母と定むるは 子先書よりある  
一 其子より母に経世を養母と定むるは 子孫に母に経世母  
養母と定むるは 子先書よりある

八月二日

松平信俊より参上

河崎若菜

書角式より東方経世母と養母とを難事

十七

親類書遠類書を別紙より

文政八酉七月丙午同月日又七年に於同会廿七日付





右之方之後事同以上

阿部飛彈子家系

八月廿二日

加藤清吉

一 表裏書全陣笠階后之右側之若事

文政九戌九月廿四日小田切古依子根 何月新島月札

一 表裏書全陣笠階后之右側之若事

一 表裏書全陣笠階后之右側之若事

一 表裏書全陣笠階后之右側之若事

表并大隅子家系

中一廿五日

福永権左衛門

一 表裏書全陣笠階后之右側之若事

一 表裏書全陣笠階后之右側之若事

二十 一 表裏書全陣笠階后之右側之若事

文政九戌九月廿四日小田切古依子根 何月新島月札

一 表裏書全陣笠階后之右側之若事

文化十戌年表裏書全陣笠階后之右側之若事

一 表裏書全陣笠階后之右側之若事

一 表裏書全陣笠階后之右側之若事

一 表裏書全陣笠階后之右側之若事

十月十日

伊東主膳



廿三  
書面初稿太神官より奉給し候事  
書面初稿太神官より奉給し候事

書面初稿太神官より奉給し候事

一 初稿 書面初稿太神官より奉給し候事

書面初稿太神官より奉給し候事

親類関係之事

文政九戌十一月月日附太左衛門より奉給

一 親類関係之事 書面初稿太神官より奉給し候事

書面初稿太神官より奉給し候事

書面初稿太神官より奉給し候事

一 書面初稿太神官より奉給し候事

親類関係之事

書面初稿太神官より奉給し候事

書面初稿太神官より奉給し候事

毛利氏より奉給

十一月八日

毛利氏より奉給

親類関係之事

文政十亥十一月月日附太左衛門より奉給

一 親類関係之事 書面初稿太神官より奉給し候事

書面初稿太神官より奉給し候事

書面初稿太神官より奉給し候事

予昔後をたむ

一 右同内へ命し病を身に見るは豫用後あるを仰る予昔後を

はせんとす

書面へ通さる予昔後をたむ

右武を東より信濃よりわたりて其の所を度し其の所を以て

後堂信濃より来る

六月十六日

山崎信濃より

二十五

殿中其の所を度し其の所を以て

文政十三年八月十四日附月より洗の所を信濃より

一万石以上より其の所を度し其の所を以て 殿中其の所を度し其の所を以て

河内国清見郡赤松中へ其の所を度し其の所を以て

予昔後をたむ其の所を度し其の所を以て 河内国清見郡赤松中へ其の所を度し其の所を以て

右の所を度し其の所を度し其の所を以て

柳江信濃より来る

八月二日

長谷川信濃より

八月九日

書面へ通さる予昔後をたむ

事

二十六

養子信濃より来る

文政十三年八月十四日附月より洗の所を信濃より

北へ

一 家中に老父あり。養子あり。子孫居候。多事なる。古訓に  
老に孝ふ。何れに孝ふ。似たり。故に奉に侍る。孝に子養ふ。家運平  
今子借用を。申さる。持合に。危く。命。古に。子。院。文。と。命。借  
賤。子。一向。子。為。美。と。新。門。信。名。及。以。子。者。節。心。等。と。  
は。度。の。向。合。り。古。と。上。

平浦佐度与家集

神志之修

四月九日

書面傳用之并何方より其養父受て存ん  
以て漸く神に之を交へ

文死去萬里方、はるかに書

文政十一年九月廿六日自岩隈伊豫志松本回至月大島伊礼

一 何事乎同藩中 地之養子之者 互相續 仕居之養父母者 之  
 新卒 有少偏重 之者 未終 之養子 之形 之死去 仕終 之養子  
 年 急 之養子 之者 養母 之飯 之養子 之月 之養父 何事 兄 之  
 里 方 之 之養子 之者 之養子 之者 之養子 之者 之養子 之者  
 之養子 之者 之養子 之者 之養子 之者 之養子 之者 之養子 之者  
 之養子 之者 之養子 之者 之養子 之者 之養子 之者 之養子 之者

内度因情事錄

安田良右馬

九月九日

書面之通之於花柳之海也

二十八

半發袖留法 一年齡之事

文政十三年七月六日圓月石夜浦なる松林に同分二日付札

一 万石以上 半發袖留法は手懸り定まりて衣を穿てあること

円月身は衣を半發袖留に衣を穿てあること

但半發袖留に衣を穿てあること 円月身は衣を穿てあること

仁徳天皇の御代に衣を穿てあること

右の如き事なれば衣を穿てあること

松平陽太郎

多末悠輔

七月十日

書内万石以上半發袖留法は一年齡の法に定まりて衣を穿てあること

先づ衣を穿てあること 衣を穿てあること 円月身は衣を穿てあること

袖留法は衣を穿てあること 衣を穿てあること 通に定まりて衣を穿てあること

二十九

書内兄弟姉妹は小男小女に當りて

一

妻は兄弟姉妹は小男小女に當りて衣を穿てあること

以て衣を穿てあること

一

妻は兄弟姉妹は小男小女に當りて衣を穿てあること

以て衣を穿てあること

一

妻は兄弟姉妹は小男小女に當りて衣を穿てあること

右の如き事なれば衣を穿てあること

稻葉丹後守家

八月九日

天明四年

書面へ通る言ひ相續け家古儀并他上様方共書し

兄弟姉妹も小男小娘も

三十

未女淑養子姉も養子実家足下縁起之事

文政十子十月は同月小男古儀も様方同書し以月札

二 南人死後妹商人よりいふ未女より他家へ養子送り石踊相

續中月々弟も右姉の儀も伯母の儀も叔母の儀も養

子実家へ足下縁起の儀も叔母の儀も伯母の儀も養

子実家へ足下縁起の儀も叔母の儀も伯母の儀も養

之宅福者より書

十月九日

書見添一書

書面へ通る言ひ縁起相續け家古儀并他上様方共書し

三十一

未女淑養子姉も養子実家足下縁起之事

文政十子十月は同月小男古儀も様方同書し以月札

一 南人死後妹商人よりいふ未女より他家へ養子送り石踊相

續中月々弟も右姉の儀も伯母の儀も叔母の儀も養

子実家へ足下縁起の儀も叔母の儀も伯母の儀も養

之宅福者より書

十月十日

赤井新八

書面へ通る言ひ縁起相續け家古儀并他上様方共書し



三十一

諸大名家族今切以国示通方之事

文政三丑五月中松平紀伊守様以改留浦坂市松町在而此由  
成金月多切以平而示通方之事如以手松平紀伊守様元  
同金月多切以平而示通方之事

三十二

一今切以国示以法以大名松町以家族松方以通方之事  
文政三丑五月中松平紀伊守様以改留浦坂市松町在而此由  
成金月多切以平而示通方之事如以手松平紀伊守様元  
同金月多切以平而示通方之事

一牌以松平主牌以奔致一松平再縁月是事  
文政三丑五月中松平紀伊守様以改留浦坂市松町在而此由  
成金月多切以平而示通方之事如以手松平紀伊守様元  
同金月多切以平而示通方之事

一娘以奔養子致一松平養子致一松平再縁月是事  
文政三丑五月中松平紀伊守様以改留浦坂市松町在而此由  
成金月多切以平而示通方之事如以手松平紀伊守様元  
同金月多切以平而示通方之事

右之親弟の古より血中成は候以同金月多切以平而示通方之事

松平丹波守家集

六月十二日

細身金古為

書面之通方之事松平月定之事

三十三

一松平主牌以奔致一松平再縁月是事  
文政三丑五月中松平紀伊守様以改留浦坂市松町在而此由  
成金月多切以平而示通方之事如以手松平紀伊守様元  
同金月多切以平而示通方之事

文政三丑五月中松平紀伊守様以改留浦坂市松町在而此由  
成金月多切以平而示通方之事如以手松平紀伊守様元  
同金月多切以平而示通方之事

一表背下 続下

一 振袖所袴 踏込

右より東河室より左別所より計兼の如得新衣及同合中上立

福恒對馬守の御朱

六月廿二日

書面何事も差別しきり及び通福より候と致候是に候  
と云々

三十五 市相殿より市書前より市方より市書屋より退き事

文化八未土月庚辰右等巻川又治市松山同合

一名直院様 文照院様より市書屋外様より市書前より市方より可  
致計又より市相殿より市書屋より市相殿より市方より

市書前より市相殿より市別殿より市方より抱何院様より  
市書屋より市書前より市方より分り市方より市方より同合  
以上

奥平大膳右衛門尉

十月八日

吉身之仲

市相殿より市書前より市方より市書屋より退き事  
と云々

三十六 隠居より市方より市書屋より退き事

文政十二丑四月十九日同合中上立市書前より市方より市書屋より退き事  
岩相屋より市方より市書屋より退き事



以有得之在國市中為之難及之格段ハ

三十八

操多長吏之別、とて事

文政十三五月九日所方之村を去る、加度遠に移元之田  
店福之同命

一 操多と長吏と唱ヤリト事

穢多、同願多とを捨て長吏とヤリト又と穢多と  
長吏とを引取にせんと事

此書而長吏と唱と穢多と依りて此と云々穢多と  
當方より長吏と唱來に也と云々

在取と云々長吏と唱と依りて穢多と長吏と引取と云々

三十九

遠路に作月と云々作月と云々事

天保二年八月曾事社以奉以服板中務若柳板元及同命是  
以苗返元同命と云々板元と通

南と遠路と作月

一 実子憐

一 同次男之男

一 同代家、養子と云々事

一 同高田之御と云々

一 遠路、養子

右南と遠路と作月と云々南と遠路と云々事



一 同日には其の如く其の如く其の如く

同日には其の如く其の如く其の如く

但し其の如く其の如く其の如く

後

一 同日には其の如く其の如く其の如く

同日には其の如く其の如く其の如く

同日には其の如く其の如く其の如く

同日には其の如く其の如く其の如く

同日には其の如く其の如く其の如く

水井飛騨守の如く

九月廿八日

四十二

同日には其の如く其の如く其の如く

水井飛騨守の如く

同日には其の如く其の如く其の如く

同日には其の如く其の如く其の如く

同日には其の如く其の如く其の如く

一 同日には其の如く其の如く其の如く

同日には其の如く其の如く其の如く

同日には其の如く其の如く其の如く

同日には其の如く其の如く其の如く

同日には其の如く其の如く其の如く

同日には其の如く其の如く其の如く



津村量平

七月八日

四十四

鞍馬本放馬場へてお押と月彦取方と事

天保三辰七月十日秋月能成も秋は使侍所へ常にお成る馬  
とて名を放行清和を中へ系目方朝は橋の西へ南へ前へ  
取押と能成日取りも速に橋の西へ南へ馬及び若者等因に渡り  
是を秘藏金と云ふと云ふ事一と云ふ所もさうと云ふ目方  
南へ一と云ふ同くともさうお成る勿論馬を渡り養育せしめ  
面成り事と云ふ馬具ともさうと云ふ見分はれりお成り月見  
分はれりとも相違なくと云ふ又お成り成金と云ふと云ふ建  
ちお成りお成り馬具と云ふと云ふ馬及びその中橋の西へ南へ  
と云ふ事

是れお成りお成り馬具と云ふと云ふお成りお成り  
お成りお成りお成りお成りお成りお成りお成りお成り  
お成りお成りお成りお成りお成りお成りお成りお成り  
お成りお成りお成りお成りお成りお成りお成りお成り

清和と云ふ事

昨吉にお成りお成りお成りお成りお成りお成りお成り  
お成りお成りお成りお成りお成りお成りお成りお成り  
お成りお成りお成りお成りお成りお成りお成りお成り  
お成りお成りお成りお成りお成りお成りお成りお成り  
お成りお成りお成りお成りお成りお成りお成りお成り  
お成りお成りお成りお成りお成りお成りお成りお成り

秋月能成も秋は使侍所へ常にお成る馬

中野清平

九月十日



竹橋清の書

松平右衛門と松平昌高

松村秀之友

四十五

永年と老軍松村又之と軍と主君との仕事

天保二年八月所記の事

一 松平永年と永年松村又之と

松平永年と永年松村又之と

松平永年と永年松村又之と

松平永年と永年松村又之と

八月

松平永年

書札

書札 永年と永年松村又之と

一 松平永年と永年松村又之と

四十六

永年と永年松村又之と

天保二年八月所記の事

松平永年と永年松村又之と

松平永年と永年松村又之と

松平永年と永年松村又之と

松平永年と永年松村又之と

松平永年と永年松村又之と

松平永年と永年松村又之と

松平永年と永年松村又之と

形角筋と云ふは乃た其の爲なりと云ふ唱と云ふは何れに於て  
之を其の及んた力に於て其の及んた力に於て其の及んた力に於て  
礼書に於て其の及んた力に於て其の及んた力に於て

小室重信侯爵の家来

二月二日

佐後俊輝

書角筋と云ふは乃た其の爲なりと云ふ唱と云ふは何れに於て  
之を其の及んた力に於て其の及んた力に於て其の及んた力に於て  
礼書に於て其の及んた力に於て其の及んた力に於て

辰八月

四十七

読範書方何事

大儒之辰八月は用書初書と云ふは乃た其の爲なりと云ふ唱と云ふは何れに於て

礼書に於て其の及んた力に於て其の及んた力に於て其の及んた力に於て  
之を其の及んた力に於て其の及んた力に於て其の及んた力に於て

八月十二日

松平右京亮

四十八

礼書に於て其の及んた力に於て其の及んた力に於て其の及んた力に於て

大儒之辰八月は用書初書と云ふは乃た其の爲なりと云ふ唱と云ふは何れに於て

一書に於て其の及んた力に於て其の及んた力に於て其の及んた力に於て  
之を其の及んた力に於て其の及んた力に於て其の及んた力に於て

寺又或文之撰後今金ありぬる惜矣仕官職を市街に得る  
右後形寺習範如何事なり我計は度同金に云上

中多量なりと云々

八月廿八日

吉田玄庵

書面後形寺より贈る服衣中庭放し出する服衣は修り  
拂ひ中月より方々なる

天保二年十一月寺社奉行乃脇坂中務大輔様より  
一長つる服衣有りハ 江戸市地にて寺社奉行途處に信不  
届きしを相宗法義より隠居退院退院致し修り拂ひ  
柳葉寺より寺解願より文書金お返し 科中月より度中解

以下。書面後形寺より科中月より度中解願より  
寺社奉行乃脇坂中務大輔様より同一年可  
中解願より寺社奉行乃脇坂中務大輔様より

相馬長つる家来

十一月廿八日

首夏後助

書面後形寺より解願より寺社奉行今 江戸市地にて  
高信より相宗法義より信不届きしを相宗法義より  
隠居退院退院致し修り拂ひ 柳葉寺より寺解願より

十一月

天保六年十月臘板中勢大補板と社改行因去年より未

他馬場より

野洲村山形城下

六橋八幡宮神社境

三云修驗宗

河津市地

明光院

兼香

右兼香源城下河津所明光院の前身は後家との宅宅目  
所古姓傳説多市々市々金切りのとて武之陣城に死命を  
當り給事二度法名を尋りて市に古姓を有る僧法名は年中  
其の法名を兼香とありて河津市地にありて是迄の例に

之書度より如何様、市中井古南信武山辰岡合中古所立

松元他馬場より兼香

十月海

板中古版

書局明光院兼香系院衣中込板、南より服衣は板分

井中井中よりあり

天保六年十月兼香社よりあり市中信書板よりあり

一 河津市河津市院兼香源城下河津所明光院の前身は後家との宅宅目  
所古姓傳説多市々市々金切りのとて武之陣城に死命を  
當り給事二度法名を尋りて市に古姓を有る僧法名は年中  
其の法名を兼香とありて河津市地にありて是迄の例に  
兼香社よりあり



中假若後に此を以て是又及遠宵に常村に及たると車に候  
中假若此を以て是又及遠宵に常村に及たると車に候  
中假若此を以て是又及遠宵に常村に及たると車に候  
中假若此を以て是又及遠宵に常村に及たると車に候  
中假若此を以て是又及遠宵に常村に及たると車に候

以上

大川澤山

松田清彦

七月  
八月九  
中假若此を以て是又及遠宵に常村に及たると車に候  
中假若此を以て是又及遠宵に常村に及たると車に候  
中假若此を以て是又及遠宵に常村に及たると車に候  
中假若此を以て是又及遠宵に常村に及たると車に候  
中假若此を以て是又及遠宵に常村に及たると車に候

中假若此を以て是又及遠宵に常村に及たると車に候  
中假若此を以て是又及遠宵に常村に及たると車に候  
中假若此を以て是又及遠宵に常村に及たると車に候  
中假若此を以て是又及遠宵に常村に及たると車に候  
中假若此を以て是又及遠宵に常村に及たると車に候

天保六年七月

一 基太市所分吉田家以下神祇本村在中假若此を以て是又及遠宵に常村に及たると車に候

義孝親王は後白河院に於て、元化生ある書有るを云ふは是也  
 社人たる内由を、其降後より其書親王寺懸法に之離且  
 其法神に及義孝親王は後白河院に於て、元化生ある書有るを云ふは是也  
 之故左中右の教に之を内一統に成て、元化生ある書有るを云ふは是也  
 義孝親王懸法に之を内一統に成て、元化生ある書有るを云ふは是也  
 形に通神を降後、元化生ある書有るを云ふは是也  
 後人云ふに、教有るを、元化生ある書有るを云ふは是也

二浦東志市公集

神系之傳

七十一

書有るを云ふは是也  
 元化生ある書有るを云ふは是也

細河院、元化生ある書有るを云ふは是也  
 其故左中右の教に之を内一統に成て、元化生ある書有るを云ふは是也  
 義孝親王懸法に之を内一統に成て、元化生ある書有るを云ふは是也

五十 武家神系

大保己巳九月、武家神系、元化生ある書有るを云ふは是也

一 大隅守祖父、元化生ある書有るを云ふは是也  
 其故左中右の教に之を内一統に成て、元化生ある書有るを云ふは是也  
 義孝親王懸法に之を内一統に成て、元化生ある書有るを云ふは是也

松平大隅守公集

生田志度次

九月十九日





五十二 妻腹之男子嫡子に就て其の事

天保三年十月十日用書水戸藩書林に送る

此書は人に見え

一 松妻腹之男子嫡子に就て其の事  
此書は二男に就て其の事  
右書は物候は成る子に就て其の事

十月十日

水戸藩書林

此書は人に見え

五十三

松妻腹之男子嫡子に就て其の事

天保三年十月十日用書水戸藩書林に送る

一 松妻腹之男子嫡子に就て其の事  
此書は二男に就て其の事  
右書は物候は成る子に就て其の事

一 松妻腹之男子嫡子に就て其の事  
此書は二男に就て其の事  
右書は物候は成る子に就て其の事

天保三年十月十日









每井元限

角長  
工長  
限

得

尾久板橋川  
限

右村三郎の自伝

以上各面西澤方より順前より右法層内境の書面材に限るが、以下各  
 書面未だ勘定面と古見の市より右の書面より南西材に限る  
 寺社動化 河見の市より右の書面より南西材に限る  
 波の教の市より右の書面より南西材に限る  
 境の市より右の書面より南西材に限る

方義一

六月

腹初悸驚守

并上為懷書分送裁訪府同知侯和泉為同知書并

執後國高田

知山方修造

金剛院

有書社及古物修護會協助文化十二字年二月十八日啟

市曆月

限

上落合

限

水

坂本 龍馬の川村

限



[illegible]

江蘇

砂村

藝

隅田村

限

工務局

15

華

南

海

北

松樓

傳

右通河府内勅化中河に及る方井上清澤より左記を書留  
るゝといふ人の中、左々には内記に及る勅考、往來法曲  
痛内、百里迄を家を法府内、勅考、内記、今より上り、東へ

方々常盤橋つゝ 而々方々 平蔵つゝ 南々方々 邦橋つゝ  
 中々方々 神田橋つゝ 方々村々 迄々方々 門々方々 岡谷々々 向々 橋  
 下々 社々 武々 大々 月々 々々 々々 漢々 上々 辰々 幸々 向々 上々

五

右柄鍍柄木厚半古用ハズ遠ク

天保四年七月六日自片法師肥後守極小

一、本病數種，大小不一。歷年去國，不若候以年久，氣血虧損。

相馬長門古家集

七月

首復祐助

書局較拓 啟年 金剛殿 跋 遠 意 之 德 之 存 存





今頃之頃地之遠古稱之有斗之及市一通貨全同地  
下之物古對稱之有或賣酒之飯之田畑之有賣者不  
去欲事一有古之別長以味諸且化之計合之之之之  
同合之之之之之之之之之之之之之之之之之之之

年七月

乃秋豐後也

六十一

諸大在東動文代市居市川<sup>女</sup>之止宿之事

天保六年二月大目月村上之町有松戶之書

一諸大在東動文代市居市川<sup>女</sup>之止宿之事  
之東之治二月光緒居市川之町有松戶之書  
服市席之市居市川之町有松戶之書

寺院古姓之家又市居市川之町有松戶之書  
市居市川之町有松戶之書

山居親原之書

二月

松清甚平

以并札

書面川之町有松戶之書  
市居市川之町有松戶之書

六十二

諸書諸判之事

天保六年八月所出市川之町有松戶之書

覺

一市居市川之町有松戶之書

標借法を謀書するなり

一人之形を割て為彫刻其質中形を以て事を行或は金子を  
借清を謀刺するなり

一人之質を中一人之形を以て事を行或は金子を借清に  
よの謀書するなり偽る書面よりなり

一人之形を以て文を以て事を行或は金子を借清に  
金子を借清に偽る文を以て事を行或は金子を

一人之形を以て文を以て事を行或は金子を借清に  
金子を借清に偽る文を以て事を行或は金子を

右の書に當る如く是を以て同令りて言ふ

阿部守太郎

八月

版部之

書面を以て事を行或は金子を借清に  
金子を借清に偽る文を以て事を行或は金子を

天保六年九月

阿部守太郎

金子を借清に偽る文を以て事を行或は金子を

金子を借清に偽る文を以て事を行或は金子を



二男前、同他家に古張を寄る事あり、同、古張を用ゐる事  
も昔より成計の事なり、此は成計の事なり、

瑞雲如雲子集

上月廿九日

村中法座集

書札  
書面、教子孫に古張を用ゐる事、二男、同他家に  
古張を寄る事、古張を用ゐる事、此は成計の事なり、  
作月、如雲子集、瑞雲如雲子集、

六十五

中書、進取、教子孫、

天保六年二月、如雲子集、瑞雲如雲子集、

一、中書、進取、教子孫、瑞雲如雲子集、

書札  
書面、教子孫に古張を用ゐる事、二男、同他家に  
古張を寄る事、古張を用ゐる事、此は成計の事なり、  
作月、如雲子集、瑞雲如雲子集、

瑞雲如雲子集

二月十八日

玉井三左衛門

書札  
書面、教子孫に古張を用ゐる事、二男、同他家に  
古張を寄る事、古張を用ゐる事、此は成計の事なり、  
作月、如雲子集、瑞雲如雲子集、

六十六

浦安、如雲子集、

天保六年二月、如雲子集、瑞雲如雲子集、

一、浦安、如雲子集、瑞雲如雲子集、

瑞雲如雲子集

四月廿日

相恒三斗

親屬通有は常女通有は原市名は老中は遠安の  
通船の故は相恒三斗

六十七

相根 口国和女通有は常改を以て事  
今切

一 吾保の四月は用書は丹藏常相下入は同籍ある春格出  
一 松春言亡兄は福江後室は實は新洗と年病は長女は月入  
湯は常生妻月申由行は若中は右屋年と海屋茶  
根は切は丹井市通約は常一冠影院常一條は左殿息  
女は少梅は辰もは丹井市は常一興は因改は常

通船は常は辰は因改は常

二月廿二日

松平江徳也

相根

相根今切は常相下入は同籍ある春格出

六十八

又義絶は常は免は父死は死後右常は通船は常

又保は年十月は月曲剛勝は中相は常

一 又義絶は常は免は父死は死後右常は通船は常

又通船は常は免は父死は死後右常は通船は常

又通船は常は免は父死は死後右常は通船は常

松平遠江守常

十月

中身一良三徳

親と通ふ親類一統如懸城の如く頼りてゐる所あり  
とあり

六十九

送中筋陸川被之方回舎とあり

天保六未月廿七日午七時辰卯元日此日吉辰申城より回舎

一送中筋陸川被之方回舎とあり辰卯元日此日吉辰申城より回舎

勝手海濱は多き者候とあり辰卯元日

但水取とあり午七時辰卯元日此日吉辰申城より回舎

夜事

七月

親類中筋陸川被之方回舎とあり辰卯元日此日吉辰申城より回舎

此に於ては川に定例無海濱とあり辰卯元日此日吉辰申城より回舎  
親類中筋陸川被之方回舎とあり辰卯元日此日吉辰申城より回舎  
多し川用務行多し川中多し親類中筋陸川被之方回舎とあり辰卯元日

未七月

七十

送中筋陸川被之方回舎とあり辰卯元日此日吉辰申城より回舎

天保六未月廿七日午七時辰卯元日此日吉辰申城より回舎

一送中筋陸川被之方回舎とあり辰卯元日此日吉辰申城より回舎

辰卯元日此日吉辰申城より回舎

辰卯元日此日吉辰申城より回舎

辰卯元日此日吉辰申城より回舎

六月 七日

板根昇

書局雅市動多改りて難多事なる

七十一

大所河原より五海なる義常市なる事

天保七申二月は用者中府被下り候より、是より大所河原より、  
口事多紙お

一 ねん志然く、候に、是より大所河原より、是より、  
は、候に、是より、是より、

二月 廿二日

不卜者ねり

同、是より、是より、是より、是より、是より、  
ノ多紙

是より、是より、是より、是より、是より、  
は、候に、是より、是より、

七十二

南山近、是より、是より、是より、

天保七申二月は、是より、是より、是より、  
ナ、同、是より、是より、是より、

一 山、是より、是より、是より、是より、  
山、是より、是より、是より、是より、  
山、是より、是より、是より、是より、  
山、是より、是より、是より、是より、

〇

天保七申二月十九日、是より、是より、是より、





多うとも先觸申す所は定むる所なし人馬共塵に依りて龍虎の

申  
七月

七  
十  
三

系譜卷之五 書法大統之事

卷之三 年譜 香山所為松山事蹟略記 書法大槪 漸  
在源太常松山同食多者左之通以義之

一書面紙に一字表わし一書

天子親王同世子王何院啟

一 新華工書

勅  
宣  
敕  
朝  
延  
皇  
居  
門

約幸  
工意  
市目見  
市對樓  
市處極

一 欠書 字 三 書

市成 還市 市上流 市社未 市二男極

瞻君作  
清判

右之於喉 詔書

隣国緑紅雅古の事

文化十周年記念十月二日細川敬伴為校中勸業地永志之書  
杉本 信之為校中勝手及同小舎中書一通

一 陸國之為城下之國也。然里社之隔中。而緣經養子市。以中。諸子若。何。之。所。為。式。以。後。有。款。延。以。因。以。以。同。合。什。事。

早月

内書

陳書綴起若子云絶く後を何れもとてしう橋別一通に

難ぬ物とてしう

七十六

系譜に車叔父歟を云ふは係縁起所之事

云保七申七月廿五日自國月村より板橋より

石井に往來叔父歟を云ふは係縁起所之事  
此は系譜に云ふは係縁起所之事  
此は系譜に云ふは係縁起所之事

九月廿二日

鐵田より書

泰吉書

凡

書面に通るは係縁起所之事

七十七

人馬の定共目之事

云保七申八月七日板橋宿同邸人より中多下係縁起所之事

陳書綴起若子云絶く後を何れもとてしう橋別一通に

中書

一 如馬を定共目之二十六日自國月村より板橋より

同書綴起若子云絶く後を何れもとてしう橋別一通に

他人更持を云ふは係縁起所之事

金持を云ふは

八月七日

板橋宿

同邸人

七十八 今切四國新橋炮通の方之事

大保七申四月廿六日松平信重が榎田留吉辰勝田清兵衛の岩  
敷原の松田家集方同合よりわしと切方留吉辰勝の記定し  
なり吉原より札するは名越た通

一 是より鉄炮通す切方とも口説文及び市中附添へるは名越書  
付るなりと名越中へ

但長村へ入るは貴岡市に改めたるなりと名越よりなりと名越  
事にはなんを延包せり同次

一 右鉄炮通す切方とも口説文及び市中附添へるは名越書

七十九 高坂の男子とて月夜に服を解き飯を食ふ事候候事

大保七申四月十日所用者松平信重が榎田留吉辰勝の記定し  
市松の記定しなり榎田留吉辰勝の記定しなり榎田留吉辰勝の記定し

榎田留吉辰勝の記定しなり榎田留吉辰勝の記定しなり榎田留吉辰勝の記定し  
榎田留吉辰勝の記定しなり榎田留吉辰勝の記定しなり榎田留吉辰勝の記定し

四月十日

溝口日記

十 榎田留吉辰勝の記定しなり榎田留吉辰勝の記定しなり榎田留吉辰勝の記定し

大保七申四月十日所用者松平信重が榎田留吉辰勝の記定しなり榎田留吉辰勝の記定し

一 男子とて加少の女子とて人となりとての事候及事候長女

[illegible]

一 在懷國去程山平下りて後 能知る力月去後月何程と細  
くも 聲ききとる妻 能知る力月去後月何程と細  
くも 聲ききとる妻 能知る力月去後月何程と細

右三通爲一經

朱律侯方子集

月

人見要

三寶

書局商賈長女難嫁居之既久年久失志者二女  
養方婦之月經但難去或亦雙方再嫁但去之在  
如書一

徐志摩

風雨之帝  
下城  
義若用信  
外  
古事

云保七申上月水天殿より同月大天より馬に同合を

一 風あり年 市城中表名用へ候者候より此辰に同合

及び事

市城中表名用へ候候より此  
不若事

八十二

市城中表名用へ候候より此  
不若事

云保八酉月岩城伊保より松元より此辰に同合  
松元より下及同合

一月次より市自取より此辰に同合

市自取より市自取より此辰に同合  
不若事

一時より市自取より此辰に同合  
不若事

市自取より市自取より此辰に同合  
不若事

八十三

市自取より市自取より此辰に同合

云保八酉月市自取より市自取より此辰に同合  
市自取より市自取より此辰に同合

鐵田之江ノ事

正月七日

泰ノ事

八十四

一旦書ヲ離縁改シ其女子ニテ有通縁為政局ニテ

文政二年二月河内青木村古板ノ局

大沼

松平修廣政組

小林彦四郎

田安以傳人

右衛門督殿近衛基綱

益子代殿附

清水源兵衛春子殿

清水金之丞

右衛門督娘文化十戌年七月五日山崎市若松ノ局

頼通縁組 仰月同年十月十日皆同古板ノ局女子人

山生ハリノ事ニ縁ニ月双方難儀ニ上ル女子人ニテ清方ト云

此後離縁仕度為市方ト云々ハリノ事ハ女子人ニテ存

娘通縁為仕度為市方ト云々ハリノ事ハ女子人ニテ存

二月十日

松平修廣願

八十五

病人岩村修送ノ事

附ノ古板亦通方ノ事

文政二年八月送中ノ職ノ股ノ何處古板ト云

一 此處人又ニ事官巡礼ニ考修ノ岩村方ニテ以て病事

ニ事ニ事ニあるニ事官巡礼ニ考修ノ岩村方ニテ以て病事





八月

八十六 奉勅交代の事

文政十三夏四月吉日月屋中御休所肥後守松平左近將監  
一 左近將監奉勅交代の事御休所未定に陣に仕るは依方之  
程合ふ家内堀場より東屋又より村より三陽東屋より  
籠より後より表段より先陣より 仰せ候はるるに月  
事同様に

松平左近將監

四月廿二日

黒田半平

書面奉勅交代の事御休所未定に陣に  
月より後より表段より先陣より 仰せ候はるるに月  
事同様に

八十七 中勢の補修の事

文政十三夏四月吉日月屋中御休所未定に陣に  
一 中勢の補修の事御休所未定に陣に  
村より後より表段より先陣より 仰せ候はるるに月  
事同様に

[illegible]

一 相方年貢の飯麦林あるに所々なき事あり延慶林は定めて  
月々子相所村にさす月々内沼場も好相海方中月々  
分々さす年々内沼方中月々若多なる年々相方所  
林古園所方所なるなき事ある事ありなりと相海に  
又さす年々内沼方中月々ありと若多なる

右之款類為古物所無者  
嘉慶二十六年  
閏八月

石川中務公卿家系

丁巳年

中村彦吉

書局與他姓多買之網之優月之主死於地防  
我合明仕為之奇格我合之子子孫中月之優者若方為  
以之...以味強其子弟其子弟之無然也古亦作之性  
以我故予未之何走之...之死既於地防我合子均  
明之...予常一其斗方向金之...報存之其即之優者  
振之優者之...以之

嘉吉月

養女、嫁、皆、烟、古、格、古、事、カ、上、一、事、

文政六未十月、以、用、青、水、所、得、古、格、古、事、

一同、氏、遠、酒、先、主、而、形、通、年、事、子、以、作、昔、の、依、之、昨、上、の、養、女、

嫁、烟、古、格、古、事、以、年、養、子、の、依、之、以、右、の、方、以、礼、終、之、事、古、格、

カ、古、格、

三月十日

同、後、播、磨、守

八十九 親、母、之、女、房、不、義、父、以、之、月、任、主、高、一、事、

文政九戌六月、所、以、奉、行、同、井、伊、賀、古、格、古、事、

和泉國南郡

上松村

長、重、の、  
貞、享、十、五、

同、村、同、人、牌

熊、次

貞、享、十、五、

在、家、父、長、重、の、美、牌、熊、次、女、房、ト、不、義、中、裁、ト、事、願、ト、仕、主、依、  
古、之、法、主、治、主、ト、密、通、一、候、中、裁、ト、事、主、對、ト、事、所、  
裁、中、以、主、ト、ト、主、依、出、道、古、事、ト、任、主、別、宅、及、古、格、長、重、  
及、相、法、古、事、承、知、古、格、裁、是、ト、事、以、ト、事、ト、主、依、古、  
ト、事、ト、裁、夜、実、父、ト、不、義、古、格、見、入、弁、ト、柄、主、ト、古、格、伴、主、月、  
裁、上、牌、之、形、主、ト、近、隣、家、ト、者、ト、裁、八、分、ト、収、入、ト、同、波、ト、事、



一 右書卷子より名借成りてより名を離れ、及ひて月を名に返附方養父より父より事より名を成り又事より身より名を成り同く信成り事より方より信より身より名を成り信成り事より方より信より身より名を成り

在之族需而必以爲其方在而後人方中報方以國方古望

牧野乾牛亭家藏

土月方

神戶市立

書局聲子子歌解神一初子依一後成人延之同養家  
之方其言波立其言其對之勝子依其言其言其言  
進而太其子一一其言其言其言其言其言其言其言其言

予は、何れも書子に方々門下あるを以て、其の身工を  
世拂ひ候へども、書父の徒半は子自己の借文にて離縁  
し、是等書家より更に更なるを以て論じ候へども、其の中  
後之南無の所抄難分なりと云ふ。此等書子、其の筆を  
交りてあること

卯  
上  
月

九

質地疏地者以地不清潔之事

天保辰月廿四日定在卯乃我輩後方和

一 長久保公直、同土佐、元禄年、李昭ウ流地ニ入居リ初  
 年、公直年拾年、或ウ拾年、同、之令不捕ルモ、為

清和帝後發元々とのた元文入り教とて太清廟殿有  
及更第一卿實地流地と云々以て四方諸帳面流地と云  
及更との在帝と書改事と云實無きとて多き切實と  
實地と云と事と報り年所とて、那年所とて、云々改事と  
一、云々改事と報り年所とて、那年所とて、云々改事と  
上と改事と云々年所とて、那年所とて、云々改事と  
其節と云々云々山度山度云々云々

二月

戸田長門守  
鈴木亮之介

見

書面實地流地と云々取地と云々清和帝後發元々とのた元文入り教とて太清廟殿有

九

東面と西面と書改事と云實無きとて多き切實と

天保元年二月、云々改事と報り年所とて、那年所とて、云々改事と

一、云々改事と報り年所とて、那年所とて、云々改事と  
市と西面と改流と云々取地と云々清和帝後發元々とのた元文入り教とて太清廟殿有  
及更との在帝と書改事と云實無きとて多き切實と  
實地と云と事と報り年所とて、那年所とて、云々改事と  
一、云々改事と報り年所とて、那年所とて、云々改事と  
上と改事と云々年所とて、那年所とて、云々改事と  
其節と云々云々山度山度云々云々









札

書面に通子也生るるを、妾は死するを命じ、日波遠く  
之を事とし、乃ち彼を海外に移し、子及遠く之を

四月廿五日 田中 龍之助 孝仁 五ノ

田中久雄

廣雅

書局に在りて歎息を十篇に遺す。子及旦就  
之。外に書を亦授けり。篇に腹忘る。一方に  
作。後承前作。

石首德安守

將左左兔

大草之脈

酒井作樂

引致し通於新李士郎の同合三月取調は是迄未だ候間  
 合へ候者見へ市に候へ者考へるに享和元年戸川  
 能成右衛門左衛門と書名書置る由所を折付て腹忌  
 如何と申す事成りし同合三月海客とてしと申す事難  
 折付致客と書折付て腹忌不及沙汰も折付て仕度  
 候者同合の通に折付て候へる合へ一は度新李士郎  
 同合の事と書候へる由折付て候へる事折付て候へる  
 事と書候へる由折付て候へる事折付て候へる事  
 折付て候へる事折付て候へる事折付て候へる事

持りて同軌し、義をあらはし、けし居るも同く

四月

石谷備後守  
將左左系  
大草一之助  
酒井作重

四月 曾下野守 田中龍之助を以て尋

彼等より、たゞし、支下對し、不法に、候と、右書をお果し、常し  
忌服に、候例を、以て、腹忌、同一評あり、し、り、右様、同く  
は、仰儀、評義、延之、腹又、延之、し、一、支下、候、月、居、前、書、席、左  
記、並、通、双方、より、り、系、以、右、並、右、取、記、程、子、常、同、合  
又、月、右、同、書、局、以、右、書、取、記、下、り、り、事

四月 毎日

卷ノ上

石谷備後守  
將左左系  
酒井作重

書、彼等より、たゞし、支下對し、不法に、候と、右書をお  
お果し、常し、忌服に、候と、し、計、以、尋、し、月、取、調、り、右、様、候  
末、同、合、し、候、右、身、事、以、月、右、評、義、延、之、密、支、延、之、  
右、常、を、失、り、お、支、下、對し、帰、道、を、破、り、右、上、違、義、以、居、  
以、右、書、お、果、し、右、支、下、對し、お、り、右、様、候、理、も、右、支、義、理、も、  
偏、し、し、し、右、様、候、万、腹、忌、も、父、子、常、義、も、右、様、候、  
此、不、法、に、右、外、お、り、り、對し、右、様、候、候、親、屬、對し、不



清之夫婦と義を以て死偶作る事血脈に親屬たる所も  
遠く義と事なりけり人達之教を布きや古通夫婦之義  
絶に之を腹忌とせ候事也腹忌一月評定付失一交紅  
之兼より腹忌之格を以て居る清之君存之教別我々之

四月

大草之腹

中ノ官古田中初之助を以て

卷之上

石谷備後守  
羽衣左京  
大弟之腹  
酒井作古事

元

師於事子而一妻之遠之妻也

一、妻即被一、妻を討撃する事也腹忌を以て方之為

右之通承方之事

天保辛酉月廿四日付

伴常子信岡幸院并修驗大宮門下子口車末之妻別  
有格之妻と云々之事也山崎之為候合死罪追放也科  
有南之仕事也月より之者也後任之妻也此等事  
より之者也此等事より之者也此等事より之者也  
此等事より之者也

